

Do a Front

AIR



2024 雪舟からの手紙

地域交流プログラム実施期間

10月20日(日)から11月24日(日)

招聘アーティスト

アンナ・マグダレナ

Anna Magdalena / オランダ [Van Gogh AiR 交換プログラム]

サンドラ・ベルギアヌ

Sandra Berghianu / ルーマニア

木村 充伯

Mitsunori Kimura / 日本

雪舟が滞在した雲谷庵をはじめ、ギャラリーシマダ、木町ハウス、秋吉台国際芸術村等さまざまなアーティスト・イン・レジデンスが生まれた豊かな文化土壌のある山口で、Do a Front AIR2024を開催します。国内外のアーティスト3名が滞在し、雪舟のいた時代から続く伝統文化や地域資源、地域の人々との交流からさまざまな発見をする中で、リサーチや創作活動を行います。地域交流期間中は、毎週日曜日に朝ごはん会を開催します。また、成果展覧会、関連するシンポジウムを実施します。ぜひ、アーティストの新たな視点をいっしょに楽しみましょう。



成果展覧会

11/22(金) - 24(日)

開場時間 11:00 - 17:00【入場無料】

ギャラリーツアー 11月24日(日) 15:00 - 16:30

会場 Do a Front (山口市堂の前町1-9)

主催: Do a Front

助成: 令和6年度 文化庁 アーティスト・イン・レジデンス型地域協働支援事業、公益財団法人 小笠原敏晶記念財団

協力: 洞春寺、水の上窯、株式会社インターン、山口大学人文学部藤川哲研究室、山口大学教育学部中野良寿研究室、N3 ART LAB

後援: 山口市、YICA(山口現代芸術研究所)

シンポジウム

11/24(日)

シンポジウム 18:00 - 20:30【入場無料】

会場 菜香亭 (山口市天花 1-2-7)

問い合わせ: Do a Front 山口市堂の前町1-9

電話番号: 070-4788-5825

E-mail: info@doafront.org



Do a Front AIR 2024 雪舟からの手紙

招聘アーティスト



アンナ・マグダレナ／オランダ [Van Gogh AiR 交換プログラム] 10.18 (Fri.) - 11.30 (Sat.) 滞在

アンナ・マグダレナは、1985年オランダ北西部のアイセル湖のほりにあるホールンで生まれた。心理学を学んだ後、芸術の勉強を続けた。彼女のプロジェクトは、人間の内面の風景と、その外側の自然界に反映されたものからインスピレーションを得ている。彼女はカメラを、さまざまなレイヤーを探索するための変革ツールだと考えている。彼女は内なる成長の言語とイメージの類似性に興味がある。



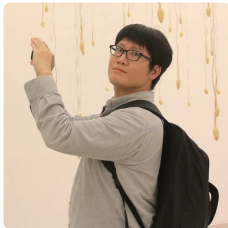
サンドラ・ベルギアヌ／ルーマニア 10.18 (Fri.) - 11.30 (Sat.) 滞在

ルーマニア、ブカレストを拠点に活動する陶芸家。

自然界に見られる不完全さや独特な形からインスピレーションを受けて、観察と幸福の実践として、また、特に醜悪で不快な世界的な出来事への反応として、身の回りの心地よさを見出す必要性から、フレンドリーなオブジェを作成する。

この視覚的なインスピレーションを内面化し、線描画から得た形と混ぜ合わせることで、明るく柔らかな色合いと一見ふわふわした質感を持つ、彫刻的な風変わりなオブジェクトが生まれる。

彫刻の柔らかさと丸みを帯びた形は親しみやすさを想起させる。ファンタジーの世界の生き物のような、癒しと楽しさを与える作品を目指す。



木村 充伯／日本 10.26 (Sat.) - 11.26 (Tue.) 滞在

1983年静岡県生まれ。2007年名古屋造形芸術大学大学院環境造形研究修了。

「人と動物の関係」をテーマに、環境や動物観、祖先と子孫など、生と死をつなぐものに焦点を当てた作品を制作している。近年は、毛皮(毛)のように表面に「毛が生えている」状態を再現する「毛が生えるパネル」を開発し、哺乳類の毛皮(毛)を再現している。また、コロナ禍以降は地球上での動植物の空気の繋がりに関し、呼吸や匂い、音に関する作品を制作。

主な展覧会にケンジタキギャラリー(名古屋、東京)での個展、「現代美術のポジション2021-2022」名古屋市美術館(名古屋 / 2021-2022)、「アイチアートクロニクル1919-2019」愛知県美術館(名古屋 / 2019)、「リヨン・ビエンナーレ2017『Rendez-vous』」Institut d'art contemporain(ヴィルールバンヌ、フランス / 2017-2018)などがある。

地域交流プログラム

● **朝ごはん会** 毎週日曜日(10月20日・27日、11月3日・10日・17日) 10:00 - 12:00頃まで

会場: 10月20日・27日、11月3日・10日…洞春寺(山口市水の上町5-27)、

11月17日…雲谷庵跡(山口市天花1-12-10)

※天候等により、会場変更、時間変更および中止の場合があります。インスタグラムで最新情報を確認してください。



● **ギャラリーツアー** 11月24日(日) 15:00 - 16:30【参加無料】 会場: Do a Front

モデレーター

会田 大也 YCAM アートディレクター

1976年生まれ。ミュージアム・エデュケーター。東京造形大学、情報科学芸術大学院大学(IAMAS)卒業。2003~2014年 山口情報芸術センター[YCAM]エデュケーター。2014~2019年 東京大学大学院GCL特任助教。2019年~現在YCAM学芸普及課長。国際芸術祭あいち2022キュレーター(ラーニング)。

通訳

池田 哲

英語と実験音楽への興味から、20代より渡英。作曲をダンカン・ドゥルースに師事。微分音や特殊奏法を取り入れた調性と音響が拡張された作品を制作する一方で、近年はポスト・ケース的な試みとして、言語と音響が入り混じる即興的なパフォーマンスを行っている。卒業後は自身のクリエイティブな活動を継続する傍ら、フリーランスの通訳/翻訳、そしてコーディネーターとして美術やビジネスなどの様々な業界に携わっている。また、近年では女子美術大学、武蔵野美術大学にて非常勤講師として美術と音楽も教えている。

● **シンポジウム 「星座をつくる一つなぎ手としてのアーティスト・イン・レジデンス」** (助成: 公益財団法人 小笠原敏晶記念財団)

11月24日(日) 18:00 - 20:30【入場無料】 会場: 菜香亭(山口市天花1-2-7)

宮本 初音 福岡アジア美術館アーティスト・イン・レジデンス事業 主任コーディネーター

インディペンデントキュレーター、アートコーディネーター。ART BASE 88 代表。

1962年 山口県生まれ、福岡市在住。

福岡を拠点に1980年代より街なかのアートプロジェクトやアートマップ制作、国内外アーティスト交流事業などを企画運営。主なプロジェクトに「ミュージアム・シティ・天神」、「別府現代芸術フェスティバル2009」、韓国との交流事業「WATAGATA Arts Network」、レジデンス事業「筑後アート往来」、博多阪急「Art CUBE」、アートコレクティブ活動「秋の種」など。2022年度から福岡アジア美術館レジデンス事業のコーディネーターを務める。

楠本 智郎 つなぎ美術館 主幹・学芸員

1966年福岡市生まれ。鹿児島大学大学院人文科学研究科修士課程修了(文化人類学/日本民俗学)。国内外の文化・教育施設での勤務を経て2001年から現職。各種展覧会を企画し開催するほか、社会教育事業としての住民参画型アートプロジェクト(2008~)や作品収蔵と個展開催を前提とした地域交流型レジデンスプログラム(2014~)を考案し実施している。地域に密着したアートプロジェクトの功罪を問いながら、地方におけるアートと美術館の可能性を探索中。

家入 健生 NPO法人 BEPPU PROJECT ディレクター

熊本生まれ。立命館アジア太平洋大学卒業。在学中よりBEPPU PROJECTにて、国際芸術祭「混浴温泉世界」(2009年/2012年) やアーティスト・イン・レジデンス (AIR) の運営などに携わる。2013年より市立美術館アーツ前橋学芸員として、地域と協働したプロジェクトやAIRを担当するほか、アトリエ・展示のためのスペース「Maebashi Works」をアーティストとともに立ちあげ、運営をおこなう。南・東南アジアを少しだけ放浪し、2018年より現職。アートスペース「Art & Garden ねこぞ」運営メンバー (2022年~)。『紫尾アートプロジェクト』ゲスト審査員・アドバイザー (2024年)。

Photo: Yuji Taneki

モデレーター

勝冶 真美 滋賀県立陶芸の森

1982年広島市生まれ。広島市立大学国際学部国際学科国際文化コース卒業。京都芸術センタープログラムディレクター、国際芸術祭「あいち2022」コーディネーターなど、アーティスト・イン・レジデンス (AIR) を中心に事業企画やコーディネートを行ってきた。現在は滋賀県立陶芸の森でアーティスト・イン・レジデンス事業を担当。これまでの主な企画に、日豪インドネシアから7名のアーティストが京都に滞在し協働した「The Instrument Builders Project Kyoto」(2018、共同企画、京都芸術センター)、AIRで制作された作品を紹介したFOCUS #3「マヤ・ワタナベ Suspended States」(京都芸術センター、2021)など。